

江戸時代の往来物を読む 解答

史料「木曽路往来」〔浅見家文書No.2358〕

【一丁目】

弘化乙巳新刻

木曽路

往来

錦森堂梓

木曽路往来

印

都路に登る枝折は

道替て春ハ木曽路の

八重霞引渡したる

板橋や文好木の香を

【二丁目】

とめて初紫の蕨宿

今日摘採ん手すさみに

浦和も田鶴の鳴連て

松の並木に大宮や聲

も長閑に上尾より底

摶となく桶川や誰が
やどりせん雨雲の空に
寫(写)れる夕日影晴間ハ
どふか鴻の巣の高きに
育雛鳥も月の輪懸

【三丁目】

て熊谷と聞も古跡や
なをさねありもの
語り其意味深谷本
直実か在し往の物
庄と嘘にハ言し岡部
村六弥太が出所とは

ふる 古きを捨て新町や
えきろ 駅路の鈴の振分て
馬に置たる鞍ヶ野も
実に高崎や遠近に
しのゝめつぐ 横雲告る鳥川波

【四丁目】

うち付の板鼻に鷹の
巣山も弥高く岸
根を濯ぐ木曽川も
安中くに妙義道
便りを爰に松井田ハ

是横川の御関所
登り下りの坂本ハ脚の
運びも軽井澤鳩の
草蓬沓掛に馬追
分けをたゐしゆくたび
分や小田井の宿旅ハ